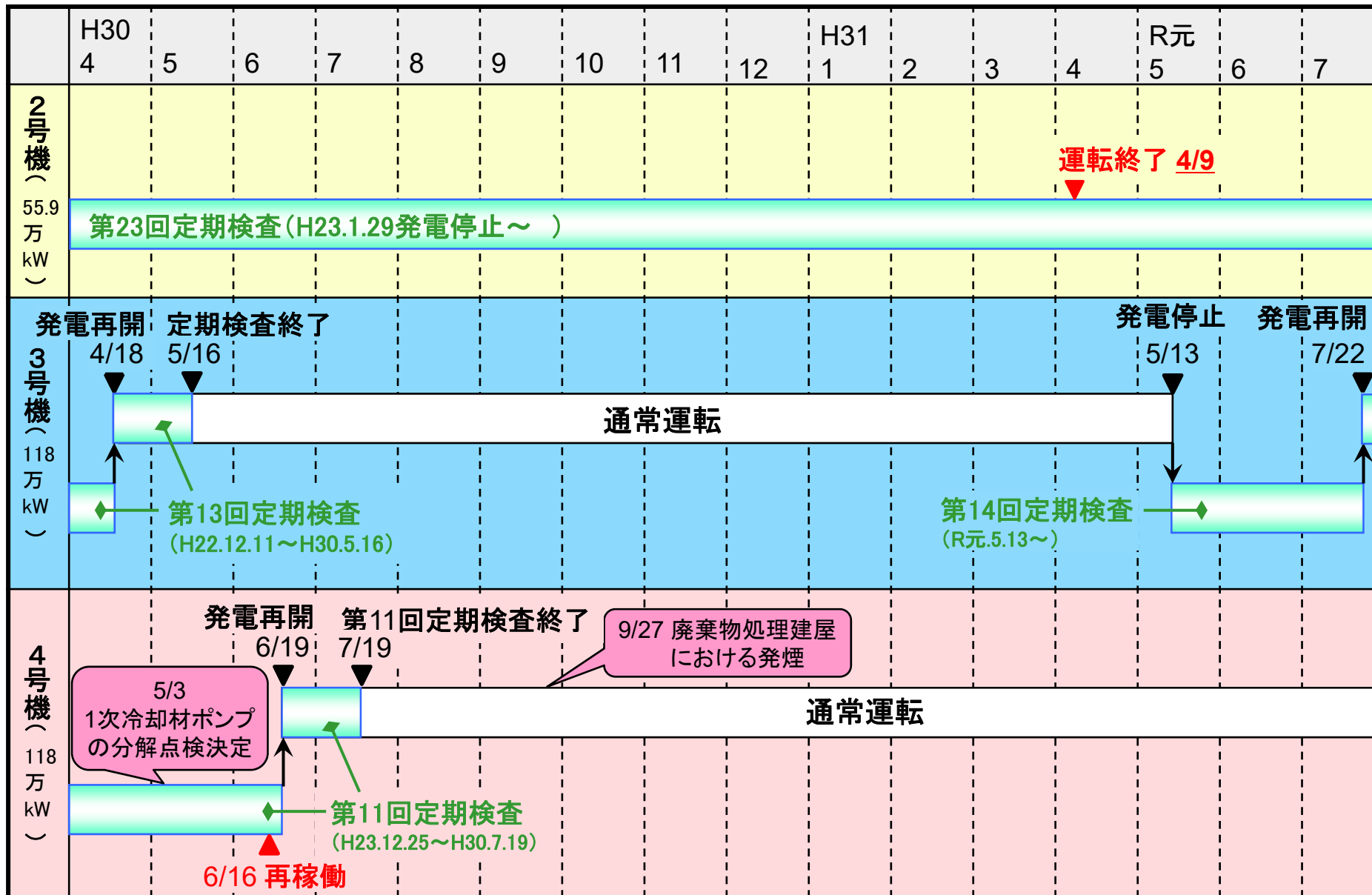


玄海原子力発電所の運転状況等について (平成30年4月～平成31年3月)

令和元年7月25日
原子力安全対策課

(1) 経過 (平成30年4月～令和元年7月)



(2) 2号機～4号機の発電状況(平成30年度)

	2号機	3号機	4号機	合計
電気出力 (MW)	559	1,180	1,180	2,919
発電電力量 (億kWh)	0	99.8	80.6	180.4
利用率※ (%)	0	96.6	78.0	70.6

$$\text{利用率} = \frac{\text{(発電電力量)}}{\text{(暦時間)} \times \text{(設備容量)}} \times 100(\%)$$

(3) 1号機の廃止措置の実施状況

①第1段階(解体工事準備期間)の進捗状況

	H30										H31				R元		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	
1号機	系統除染(H29.7.13~H30.12.11)																
	汚染状況の調査(H29.8.29~)																
	汚染のない設備の解体撤去(H29.11.1~)																

②解体撤去物の発生状況(平成31年3月末時点)

種 類	発生量(トン)		処分量(トン)		期末保管量(トン)
	今年度	累計(※)	今年度	累計(※)	
金属類	398.4	532.1	398.4	532.1	0
コンクリート類	0	0	0	0	0
その他	11.8	14.3	11.8	14.3	0

廃止措置開始(H29.7)以降の発生量

(4) 燃料輸送等の状況(平成30年度)

① 新燃料(取替用燃料)の搬入

搬入年月日	集合体数	搬入元	輸送手段	号機
平成30年7月6日	66体	三菱原子燃料(株)	船舶輸送	4号機
平成30年8月6日	28体	原子燃料工業(株)	船舶輸送	3号機
平成30年11月13日	70体	三菱原子燃料(株)	船舶輸送	3号機(34体) 4号機(36体※)
平成31年3月8日	56体	原子燃料工業(株)	船舶輸送	4号機

36体のうち7体は制御棒を装着した状態で納入

② 使用済燃料の搬出

該当なし

③ 低レベル放射性廃棄物の搬出

搬出年月日	搬出量 (200リットルドラム缶相当)	輸送手段	搬出先
平成30年6月22日	480本	船舶輸送	日本原燃(株)
平成31年1月18日	1,368本	船舶輸送	日本原燃(株)

低レベル放射性廃棄物:原子力発電所等の運転等によって発生する放射性物質の濃度が低い廃棄物

(5) 放射性廃棄物の管理状況(平成30年度)

① 気体・液体廃棄物の放出量

種 類	放出量 (ベクレル)	放出管理目標値 (ベクレル/年)
気体廃棄物	定量限界未満(※)	1.6×10^{15}
液体廃棄物	定量限界未満(※)	1.1×10^{11}

() 定量限界未満: 測定の結果、放射性物質の量が検出できる下限値未満

② 固体廃棄物の保管量(平成31年3月末時点)

	貯蔵量(本) (200リットルドラム缶相当)	貯蔵設備容量(本) (200リットルドラム缶相当)
原子炉施設合計	39,256	約49,000

(6) 事故・故障等の発生状況

①安全協定第6条に該当する事故・故障 該当なし

②保全品質情報 } 法令及び安全協定上報告の必要は無いが、電力会社や産学官
で共有することが有益な原子力発電所の保守・運営情報

②-1 4号機 原子炉格納容器隔離弁のリミットスイッチ調整について
(定期検査中にリミットスイッチの位置ずれが判明し、調整を行ったもの)

➡ 平成30年4月9日発生。(前回の協議会で報告済み)

②-2 4号機 1次冷却材ポンプのNo.2シールリークオフ流量
増加について

➡ 平成30年5月3日発生。(前々回の協議会で報告済み)

②-3 玄海3号機におけるプラグングデバイスの変形について

➡ 令和元年6月21日発生。詳細は資料4-6で説明。

(6) 事故・故障等の発生状況

③その他の情報 [①、②に該当しない事象ではあるが、発生について九州電力が公表したもの(発煙等)]

玄海原子力発電所 廃棄物処理建屋における発煙

➡ 平成30年9月27日発生。(前回の協議会で報告済み)